

平成26年秋の外国人叙勲

フランク・ジェームス・センセンブレナー下院議員，トーマス・エバート・ピートライ下院議員，及びジェームス・アデルバート・マクダーモット下院議員の旭日重光章受章

平成26年11月5日
在米国日本大使館

平成26年11月3日（日本時間），日本政府は，平成26年秋の外国人叙勲として57名の受章者を発表しました。この中でフランク・ジェームス・センセンブレナー米連邦下院議員，トーマス・エバート・ピートライ米連邦下院議員，及びジェームス・アデルバート・マクダーモット米連邦下院議員の3名が同時に叙勲（旭日重光章）されることが発表されました。3名の米連邦議員による同時受章は今回が初めてのこととなります。同3名は，長らく日米議会交流の活性化及び米連邦議会における対日理解の促進を通じた日米同盟の維持・深化に寄与してきたところ，これにより今回の受章となったものです。

1 受章者

(1) フランク・ジェームス・センセンブレナー下院議員

- 賞賜： 旭日重光章
- 功績概要： 日米議会交流の活性化及び米議会における対日理解の促進を通じた日米同盟の維持・深化への寄与
- 氏名： フランク・ジェームス・センセンブレナー（Frank James Sensenbrenner）（男，71歳）
- 主要経歴：
 - 現 連邦下院議員
 - 元 ウィスコンシン州上院議員
 - 元 ウィスコンシン州下院議員
 - 元 日米国会議員会議共同議長
- 国籍・現住所：アメリカ合衆国・コロンビア特別区ワシントン

(2) トーマス・エバート・ピートライ下院議員

- 賞賜： 旭日重光章
- 功績概要： 日米議会交流の活性化及び米議会における対日理解の促進を通じ

た日米同盟の維持・深化への寄与

- 氏名： トーマス・エバート・ピートライ (Thomas Evert Petri) (男, 74歳)
- 主要経歴：
 - 現 連邦下院議員
 - 現 日米国会議員会議共同議長
 - 元 ウィスコンシン州上院議員
 - 元 議会日本研究グループ共同議長
- 国籍・現住所：アメリカ合衆国コロンビア特別区ワシントン

(3) ジェームス・アデルバート・マクダーモット下院議員

- 賞賜： 旭日重光章
- 功績概要： 日米議会交流の活性化及び米議会における対日理解の促進を通じた日米同盟の維持・深化への寄与
- 氏名： ジェームス・アデルバート・マクダーモット (James Adelbert McDermott) (男, 77歳)
- 主要経歴：
 - 現 連邦下院議員
 - 現 日米国会議員会議共同議長
 - 現 議会日本研究グループ名誉議長
 - 元 ワシントン州上院議員
 - 元 ワシントン州下院議員
- 国籍・現住所：アメリカ合衆国・ワシントン州シアトル

2 各受章者の功績概要

(1) フランク・ジェームス・センセンブレナー下院議員の功績概要

センセンブレナー下院議員は、昭和53年、連邦下院議員選挙で初当選を果たして以来、連続当選を重ね、現在議員歴は18期34年を数えるベテラン議員です。また、平成9年から平成13年まで下院科学・技術委員長、平成13年から19年まで下院司法委員長といった要職を歴任してきました。

センセンブレナー下院議員は、主として平成に入って以降、米下院と日本の国会との議員交流の枠組みである日米国会議員会議において中心的な役割を果たし、25年にわたって開催されている日米間の議員間交流の推進に大きく貢献してきました。平成11年から18年にわたっては米側共同議長として、ワシントンにおける会議を毎年欠かさず主催したほか、共同議長を退いた後も同枠組に積極的に貢献しました。

さらにセンセンブレナー下院議員は、平成5年の米議会日本研究グループの創設以来、

中心メンバーとして、同グループの活動に積極的に参加してきており、最近では、本年2月の同グループ初となる訪日団の共和党側代表者を務めたほか、本年4月に実施された同グループのNYでのイベントにおいても、米議会内における対日理解の促進、日米議員間交流の促進に大きく貢献しました。

(2) トーマス・エバート・ピートライ下院議員の功績概要

ピートライ下院議員は、昭和37年にハーバード大学を卒業、昭和40年に同大学法科大学院を修了した後、ケネディ大統領が創設した「平和部隊」に参加し、昭和41年から昭和42年の2年間、ソマリアにおいてボランティア活動に従事しました。その後、ホワイトハウス勤務、ウィスコンシン州における弁護士活動、州上院議員（昭和48年～昭和54年）を経て、昭和54年の特別選挙において連邦下院議員に初当選を果たしました。初当選以降、18回連続して下院議員に当選、議員歴は36年に及びますが、本年4月、次期下院議員選挙に出馬せず、平成27年1月に終了する現在の任期限りで引退する意向を表明しました。

ピートライ下院議員は、主として平成に入って以降、米下院と日本の国会との議員交流の枠組みである日米国会議員会議において中心的な役割を果たし、25年にわたって開催されている日米間の議員間交流の推進に大きく貢献してきました。平成19年以降は、8年にわたり、米側共同議長として、ワシントンにおける会議を毎年欠かさず主催するなど、同会議の活動に積極的に貢献してきました。

さらにピートライ下院議員は、平成5年の米議会日本研究グループの創設以来の中心メンバーであり、特に平成8年から平成9年にかけて共同議長を務めるなど、中軸メンバーとして、同グループの活動に積極的に参加し、現在に至る同グループの基礎を築くに当たり非常に大きな役割を果たしました。また、同グループの共同議長の任にないときも中心議員として、同グループの設立以来20年以上にわたり、一貫して同グループの活動を支えています。

(3) ジェームス・アデルバート・マクダーモット下院議員の功績概要

マクダーモット下院議員は、昭和33年にイリノイ州ウィートン大学を卒業、昭和38年にイリノイ大学大学院で精神科医の学位(M.D.)を取得した後、昭和43年から昭和45年まで軍医として米海軍での軍務に従事しました。退役後、昭和46年から昭和47年、昭和50年から昭和62年までそれぞれワシントン州議会にて下院議員及び上院議員を務めました。昭和62年から昭和63年までは、在ザイール(現コンゴ民主共和国)米国大使館医務官を勤め、昭和64年/平成元年から現職に就いています。

マクダーモット下院議員は、主として平成に入って以降、米下院と日本の国会との議員交流の枠組みである日米国会議員会議において中心的な役割を果たし、25年にわた

って開催されている日米間の議員間交流の推進に大きく貢献してきました。平成13年以降、現在に至るまで、特に米側共同議長として、ワシントンにおける会議を毎年欠かさず主催するなど、同会議の活動にリーダーシップを発揮し貢献してきました。

さらにマクダーモット下院議員は、平成5年の米議会日本研究グループの創設以来の中心メンバーであり、特に平成15年から平成25年にかけては共同議長、その後現在まで名誉共同議長を務めるなど、中軸メンバーとして、同グループの活動に積極的に参加し、現在に至る同グループの基礎を築くに当たり非常に大きな役割を果たすなど、同グループの設立以来20年以上にわたり、一貫して同グループの活動を支えています。

(了)